

ワークシート③ 「小説に書かれていない場面を想像して、考えを交流しよう」

一年 組 号)

●構成や登場人物を確かめ、情景描写の効果を考えて感想をまとめましょう。

○情景描写の効果をまとめましょう。

	情景描写の効果（場面、雰囲気、心情、出来事、暗示、予感、感覚、感動などの言葉を使ってみよう）
1	場面の雰囲気を作る
2	登場人物の心境を表す
3	語り手の心境を表す
4	これから起こる出来事を暗示する（予感させる）
5	読み手の感覚に直接訴えて感動を生む

○現在の部分に使われている情景描写にマーキングをしてその効果を考えてみましょう。

○現在の部分に使われている情景描写の中で、物語の展開において最も重要だと思う表現を選び、その効果を考えてみましょう。

最も重要な情景描写	効果（情景描写の効果を踏まえて具体的に書きましょう）
彼はランプのほやの上でたばこに火をつけ、緑色のかさをランプに載せた。すると、私たちの顔は、快い薄暗がりの中に沈んだ。彼が開いた窓の縁に腰かけると、彼の姿は、外の闇からほとんど見分けがつかなかった。私は葉巻きを吸った。外では、カエルが遠くから甲高く、闇一面に鳴いていた。	「私たちの顔」が「快い薄暗がりの中に沈んだ」ことで、互いの表情をはっきりと見られない安心感が生まれている。このことは、「話すのも恥ずかしい」「彼」の思い出を語るのにとってもよい雰囲気づくりとなっていると思う。さらに、「彼の姿は、外の闇からほとんど見分けがつかなかった」ので、話を聞く「私」は緊張感を感じ、覚悟をしたと思う。外は遠くからカエルの声が響くほど静かで、 <small>せいひつ</small> 静謐な感じがする。

○グループでの話し合いや、学級での発表を聞いて、現在の部分の情景描写の役割について自分の考えをまとめましょう。

前半で描かれる現在の場面は、少年が過去に犯した「償いのできない」出来事を心に抱え、ながらも前向きに生きて立派な大人になっていることを読み手に知らせてくれる。その点で読み手は安心して後半を読むことができる。しかし、ちょうを指で粉々に押しつぶしてしまう場面が終わってしまうので、やりきれない思いになる。そして、現在を生きる「彼」について思いを寄せずにはいられなくなる。現在の部分は現在の「彼」を想像させる役割がある。